

21世紀COE「死生学の構築」国際シンポジウム(哲学会共催)

精神医療と触法行為の死生学

—殺人行為をめぐって—

刑罰

自由

責任能力

葛藤

解決

■ 11:00より 特別講演

"Insanity and Responsibility :

Does M'Naghten do Justice to the Manifestly Mad?"

「精神異常と責任 —マクノートン・ルールは明らかに
異常をきたしている者に正当に適用できるか—」

提題者 Professor Jill Peay
(London School of Economics, Mental Health Law)

■ 13:40より パネル・ディスカッション

提題者

作田明(聖学院大学、犯罪精神医学)

八尋光秀(福岡県弁護士会精神保健委員会、弁護士)

長谷川真理子(総合研究大学院大学、生物学)

一ノ瀬正樹(東京大学、哲学)

コメンテータ

小田晋(帝塚山学院大学、精神医学・犯罪学)

コメンテータ兼司会

加藤尚武(東京大学、哲学・応用倫理学)

2006年12月9日[土] 東京大学本郷キャンパス法文2号館・一番大教室

どなたでもご自由に参加いただけます。(無料) 事前のお申し込み等は不要です。通訳ならびに資料(日・英)もご用意致します。

主催/東京大学大学院 人文社会系研究科 21世紀COEプログラム「生命の文化・価値をめぐる『死生学』の構築」Tel/Fax. 03-5841-3736 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/shiseigaku>